

電制機関紙

とらい

平成25年 年始号

発行所
株式会社 電制
広報室〒067-0051
江別市工業町8番地の13
TEL(011)380-2101
FAX(011)380-2103
http://www.dencom.co.jp賀
正DENCOM
DENSEI COMMUNICATION Inc.

年頭ご挨拶

代表取締役 田上 寛



謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年は欧州経済の信用不安でギリシャに続いてスペインの債務危機がクローズアップされ薄氷を踏む思いで始まった世界経済でしたが、1年を経た今年も回復の兆しが見えぬまま新しい年を迎えることとなりました。

長引く世界経済の不安の中にあって日本の政治経済が更に深刻であることが気になります。産業界では世界でも存在感のあるシャープやパナソニックが2年連続で数千億円規模の赤字決算見通しを発表し、自動車業界も円高の影響や日中外交問題で中国市場の売上が大幅に減少するなど、産業界全体の弱体化は否めない状況にあります。

一方で政治は、経済問題や外交問

題が複雑化する中で昨年暮れに衆議院解散総選挙があり、政治活動棚上げで選挙一色となっていました。2013年は、政治に安定感が出るのでしょうか。

冬本番となった道内状況、こちらも難題を抱えたまま新年を迎えています。道内主力電源である泊原子力発電所が稼働停止しているために、余裕なくフル稼働を続けている火力発電設備、大型火力発電設備にトラブルが生じた場合の電力不足の懸念、火力発電用燃料の輸入量増加に伴う海外への膨大な道内資金の流失、経済成長に必要な電力を節電することによる生産性低下の現実等々、問題山積です。少しでも早く泊発電所が運転再開され、安心できる北海道となることを願います。

ここからは社員の皆さんに新年のご挨拶を兼ねて「会社のプライド」について少しお話しします。

人に人格があるように会社にも法人格というものがあります。法人格とは、「法人にも権利・義務があることを認めるために法的に人格を付与したもの」という法律解釈上の言葉であり“法人に与えられる人格”のことを云いますが、意思を持つものにしか与えられない権利や義務によ

る人格を“法人格”という言葉に変えて会社が持つならば、当然にして会社には毅然としたプライドがなければなりません。そこで何故、会社にプライドがなくてはならないのかについて考えていきます。

会社では社員が様々な仕事に従事していますが、その仕事の仕方として、社員自身のプライドに掛けて仕事を行うのと、会社のプライドに掛けて仕事を行うのとではその仕事の出来栄は全く違ってきます。これはどういうことか。その答えは、「社員自身のプライド」は社員それぞれに違うが、「会社のプライド」は社員が何人増えようとも一つしかないということ。言い換えると、「会社のプライド」は一つにしななければならない、社員個々の基準で持つものではないということです。

社員全員が目指す“自社のあるべき姿”という明確なる自分の会社に対する共有のイメージが存在して、その会社イメージを崩さないように業務にあたる姿こそが「会社のプライドに掛けての仕事」なのです。

仕事の品質は、規定や規格の厳格化により、その決めごとの範囲内でバラツキは無くせますが、仕事の質というものを人に感動を与える程に高め保とうとする時には、社員それ

ぞれのプライドではなく、全社員が共有する「会社のプライド」が必要となります。「社員自身のプライドに掛けて仕事を行う」と「会社のプライドに掛けて仕事を行う」とでは出来栄が全く違ってくるということを改めて考えて下さい。どんな仕事に対しても、引き受けたなら「会社のプライド」に掛けて遂行することが極めて大切、その姿が何れ「人に感動を与える」という仕事の結果にも繋がります。

最後に当社の出来事でのご紹介ですが、昨年の本紙面に掲載した当社製品の非接触式油検出センサー「商品名：エスリオ1」が技術力・社会性を高く評価され、昨年秋に、平成24年度北海道新技術・新製品開発賞ものづくり部門奨励賞を頂きました。本製品の開発にあたって多大なるご協力を戴いた北海道電力株式会社の関係者の皆様には本紙面にてお礼申し上げます。

2013年もまた、新たなる知識と創造で人に感動を与える製品の開発に努め、多くの人達に笑顔を与える株式会社電制であるよう努めてまいります。皆様には一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

電力業界の一員として 緊急設置電源と京極発電所に関わる

一昨年 3 月に発生した東日本大震災の傷跡が癒え切らぬなか長期化している原子力発電所の停止を受け、夏季の電力供給力確保対策の一環として行われた『苫小牧発電所 緊急設置電源設置』および北海道ならではのと言える冬季の電力需要を見越した『早来発電所 緊急設置電源設置 (系統連係設備工事)』について、受入試験から総合動作試験に至るまでを、昨年、北海電気工事株式会社様よりご注文頂きました。



強固なものにするため建設が進められています京極水力発電所につきましては、放流警報装置、情報伝送装置、所内電源キュービクル、所内盤、土木電気設備の設計・製作・試験、及び工事関連をご注文頂いております。道内初の純揚水発電所という特徴的な発電所への想いはさることながら、昨今話題となっている風力発電をはじめとする自然エネルギーの連携増強に対する負荷追従、周波数調整において重要視される水力発電に貢献できることも、ひときわ

夏季冬季を通して安定供給へ向けた対策を次々に施される中での作業ということもあり、工事内容、スケジュールに柔軟かつ正確に対応することが通常以上に求められましたが、これまで培ってきた様々な経験、またそれに裏打ちされた人材と、道内企業だからこそこのフットワークの軽さを最大限に活かし、電力業界の企業として安定供給のために尽力できたことを嬉しく感じています。

さらに将来の電力供給体制をより



嬉しく感じています。創業時から携わらせて頂き蓄積した水力発電分野の技術ノウハウを存分に活かし、高品質な製品および作業をご提供し、平成 26 年 1 月予定の工事竣工時には、お客様の期待以上の仕上がりとなるよう努めてまいります。



↑雪すきふ雪条件の中での作業となりました

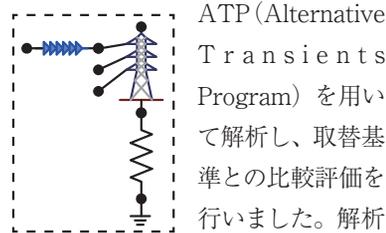
**H24
北海道新技術・新製品開発賞
奨励賞を受賞**

←開発者の原と頂いた賞

非接触式油検出センサー S-LIO 1 (エスリオ 1) が、平成 24 年度 北海道新技術・新製品開発賞の奨励賞を受賞しました。紫外線領域の光を用いた【蛍光受光方式】の考案により、可搬性に優れ検出後のメンテナンスが不要で、非接触センサーでありながら低価格を実現したところを評価頂きました。

新たな取組み 解析業務と研修業務

送電設備への落雷時に発変電所に侵入する過電圧を解析し、各種機器への影響度を評価する“雷サージ解析”業務を昆布発電所について受託し、昨年 3 月に結果をご報告いたしました。水力発電所の発電機固定子巻線取替基準は絶縁協調を基に (2E + 1) kV と制定されていますが、送電設備への雷撃によって発電所内へ侵入する雷サージ過電圧を



結果は発電機固定子巻線の余寿命検討を行う上でお役に立てております。

またダムにおける様々な電気設備において異常が発生した際、復旧までのトータル時間を短縮することを目的とした土木電気設備保守業務研修を、昨年 9～10 月にかけて 2 回、滝川テクニカルセンターおよび当社工場にて開催いたしました。障害発生時の初期対応に必要な基礎的な知識について、講義形式および実習形式にて執り行ったもので、障害発生時の迅速な情報収集や的確な情報の共有により、障害の早期解決・被害拡大防止に今回の知識が役立つことを期待しています。

奮闘記 七飯 PS 屋外配開改良工事を振り返って

H21 年度の工事設計・現地調査からスタートした七飯発電所 187kV 屋外配開改良工事を、22 年度に株式会社北弘電社様よりご注文頂き、昨年、北本七飯線以外全ての 187kV GIS への切替作業が終了しました。七飯発電所は、北海道と本州を直流送電で繋ぐ交直変換所と 187kV 北本七飯線 1・2 号送電線につながっており、機器条件など情報のやり取りも複雑で、さらに基幹系 4 回線・連変 3 バンク・66kV 系は道南の主要変電所へ電力の供給をしているなど重要度が高い設備です。

受けている中での長期間作業となったこともあり、慣れによる回線誤認が無いのか、北本に影響が無いかなど「北本は大丈夫？ 影響はない？」と、常に声を掛け合いながらの作業に努めました。どの現場、どの作業においても言えることですが、1 つの失敗で生じる影響の大きさや作業の重要性を強く再認識させられる緊迫した作業でありました。

本格的な切替工事は平成 24 年 4 月から始まり、昨年中に北本七飯線を除く切替作業が終了しましたが、切替当初は本州へ電力を供給し、夏季には本州より電力の供給を

このような長期かつ緊迫した作業を無事に終了できましたことを関係各位に感謝申し上げます、また今年控えている北本七飯線の切替も声掛け確認を徹底し、無事故・無災害で終わらせるよう作業致します。



技術部 電力課 福佐 圭介

編集後記

昨年 Windows 8 が発売され、Android、iPad などタブレット市場が賑わいを見せました。最近はニュースも Web 上で見られ

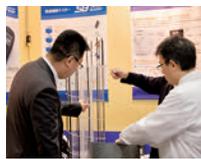
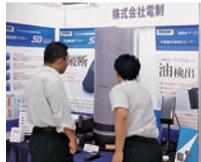
ることが多くなったようですが、広報担当はまだ紙ベース。やはり紙のほうが読みやすいですね？ 広報担当 (S)

【昨年の受注・取組み例】

- ★ 沼ノ端変電所 新設工事
- ★ 春別発電所変圧器保護継電器盤
- ★ 札幌統括電力センター 変電機器回路研修開催 ... 等

【展示会出展】

- ★ 平成 24 年電気学会 電力・エネルギー部門大会
電力分野に関わる製品群 (鉄筋破断テスター、非接触式油検出センサー、自動通報呼出装置) を展示しました。道外の電力会社様からも関心を賜ることができ、成果ある展示会となりました。
- ★ 第 26 回北海道技術・ビジネス交流会
電力分野営業品目のご紹介をメインに、事業内容および製品群を展示しました。ご来場頂いた様々な業種の方々に当社を知って頂く良い機会となりました。



【企業見学・インターンシップ受入】

- ★ 昨年 8 月 北見工業大学からインターンシップ学生を受け入れ
8 月 27 日から 1 週間、インターンシップ学生の受入れを行い設計作業等の実習をして頂きました。後日、本人から「こうした体験ができましたことは、就職活動を先に控えている私には大変勉強になりましただけでなく、ぜひとも貴社で皆様と一緒に働きたい思いも生まれました。」との礼状を頂きました。
- ★ 道内 4 高専、東海大学学生が企業見学に来社
若さ溢れる学生諸君が企業見学に来社されました。緊張した面持ちもすぐにほぐれ、真剣な眼差しで食い入るように説明を受けていらっしゃいました。



お知らせ

電気現場技術 9 月号に鉄筋破断テスター (SB テスター) が紹介されました。講談社「食道がん」に電気式人工喉頭の例としてユアトーンが写真付きで掲載されました。昨年 12 月に指抑揚ユニットが標準化された「電気式人工喉頭ユアトーン II UB」がラインナップされました。中学校教諭向け学習教材「企業の技術」に電気式人工喉頭をテーマに当社が取り上げられました。NHK ワールドの番組サイエンスビューで研究開発室長の須貝が紹介されました。web から視聴できます。 <http://www.3.nhk.or.jp/nhkworld/english/tv/scienceview/index.html>